ソロハンターの生態4
THE FIFTH PART
ADULT ONLY
YOKOHAMA JUNKY

ソロハンターの生態4
The fifth part

†

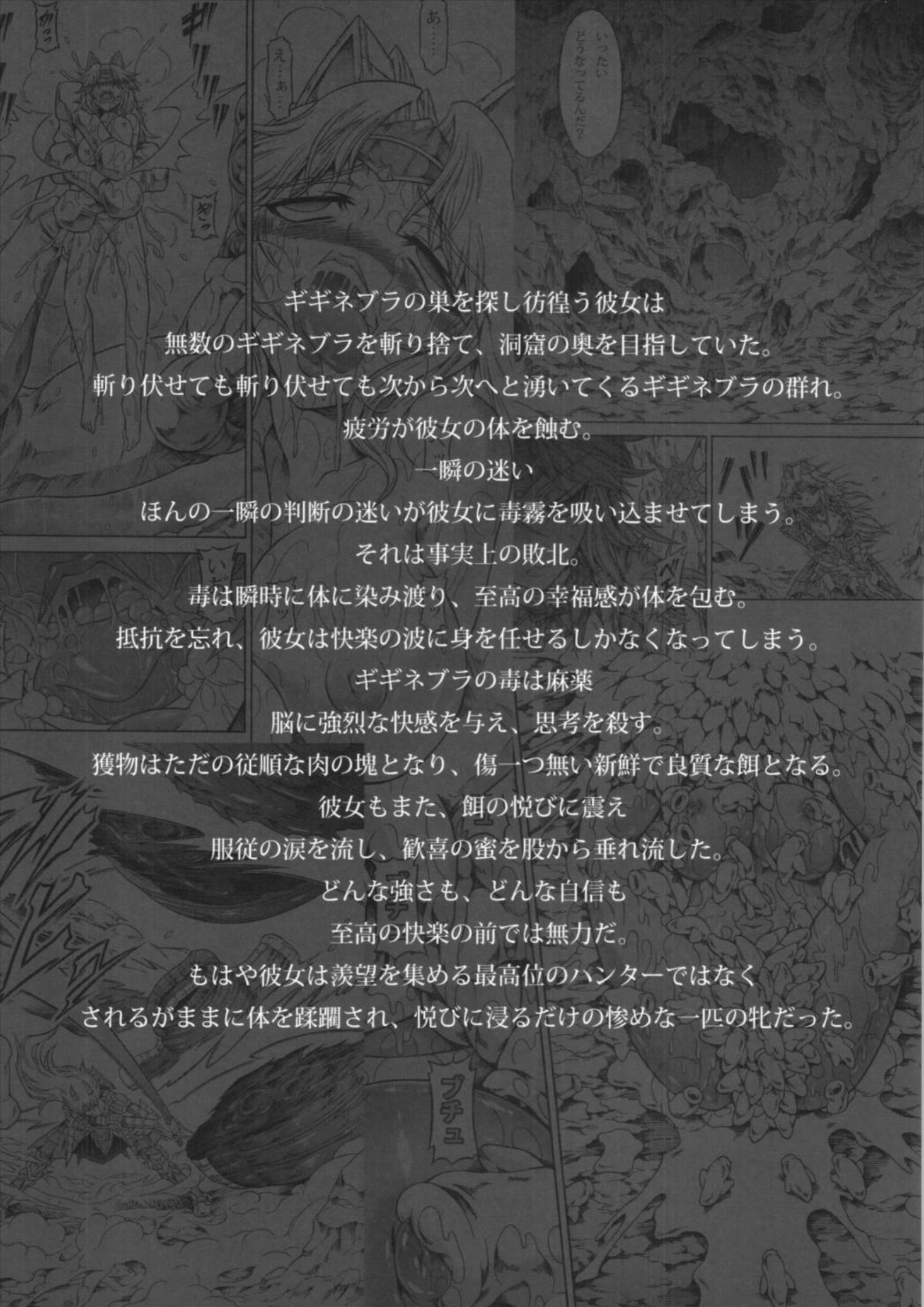
ギギ○ブラに捕らわれ、幼生達の餌として飼われてしまった女ハンター
巨大な巣の中で彼女は成長途中のギギ○ブラ達に
狩りの訓練用の肉体として使われ、吐精の訓練用の肉穴として犯されていた
痛めつけられ、女の悦びに狂わされる日常の中で彼女の精神は蝕まれていく
そんな中、彼女を犯した一匹のギギ○ブラが雄の衝動に狂い、彼女を壊そうとする
いかにハンターの強靭な肉体といえど、猛り狂ったギギ○ブラの前では為す術も無い
軋み悲鳴を上げる女ハンターの肉体
しかし毒に犯された彼女の脳は全ての苦しみを快感へと変えていった
身を任せ、悦びに浸る女ハンターの肉体は、絶頂と共に死の淵へと堕落していく
そして、彼女は知らなかった
広大なギギ○ブラの巣の深層には
人の理解を超えたおぞましい場所が存在している事を……

†

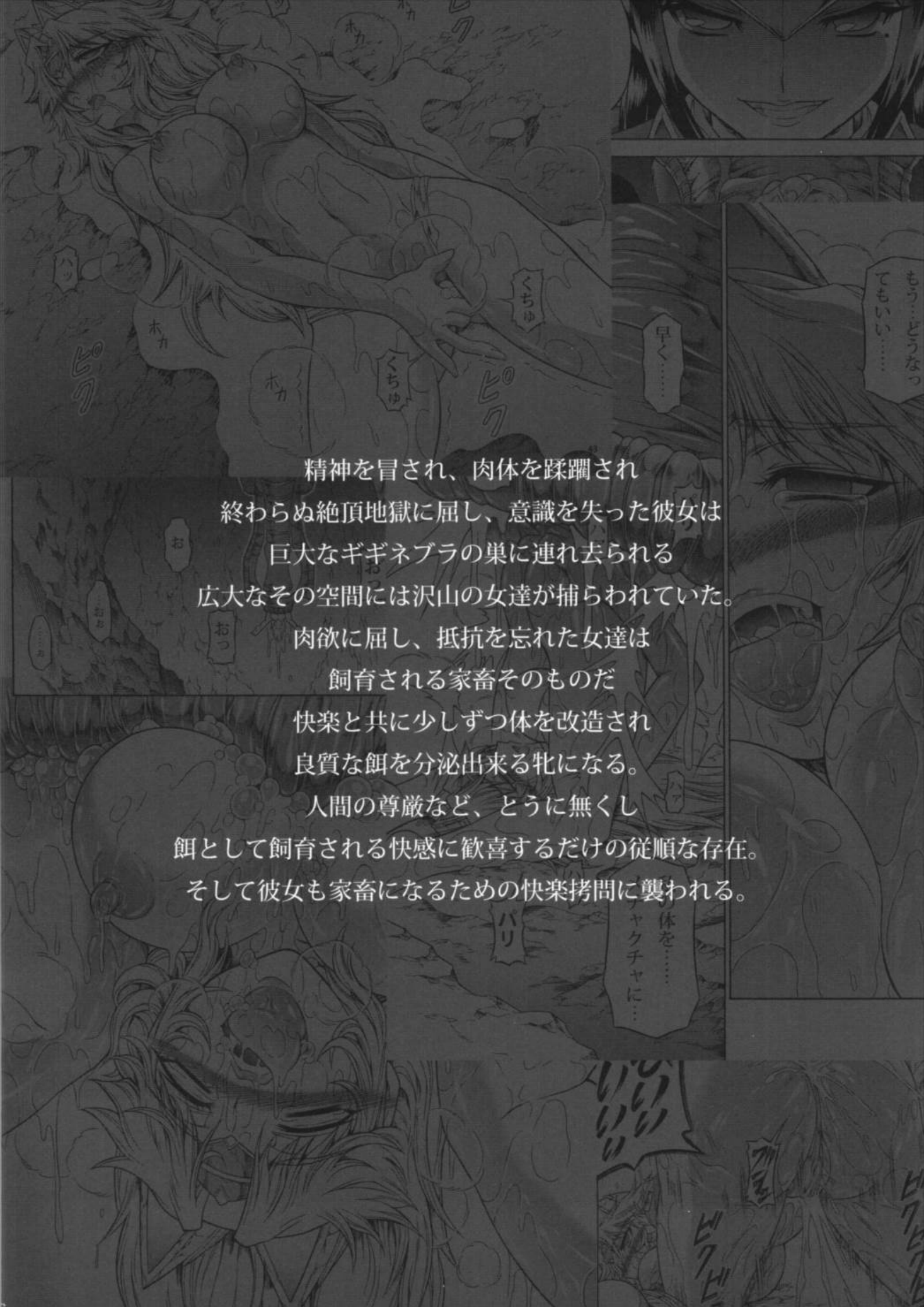
※本書は18禁です、18歳未満の閲覧は禁止です。

Yokohama Junky

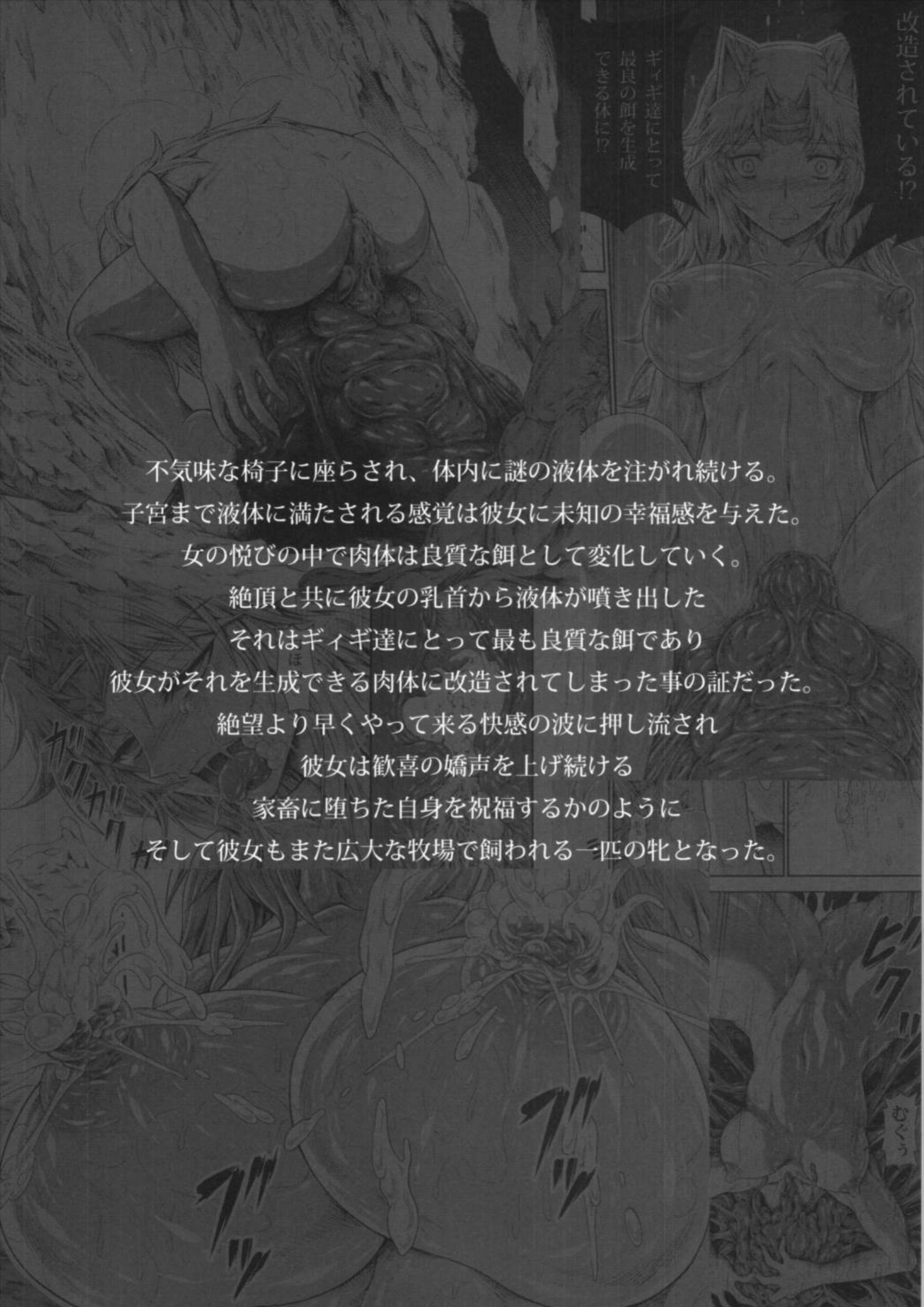
彼女は有能だった。
彼女に与えられたのは『調査任務』
辺境の地で異常な進化を遂げたギギネブラの生態を
観察し、分析し、報告する。
彼女にはあくびが出るほど退屈な任務だった。
若くしてギルドの最高位ハンターに名を連ねた彼女は
周囲を見下す傲慢さと、実力に裏付けされた自信を持っていた。
『退屈な任務に期待以上の成果を』
彼女は貪欲な野心家だった。
だが、まだ彼女は知らない
ギギネブラ達の危険な習性、そして敗北したハンター達の末路を。



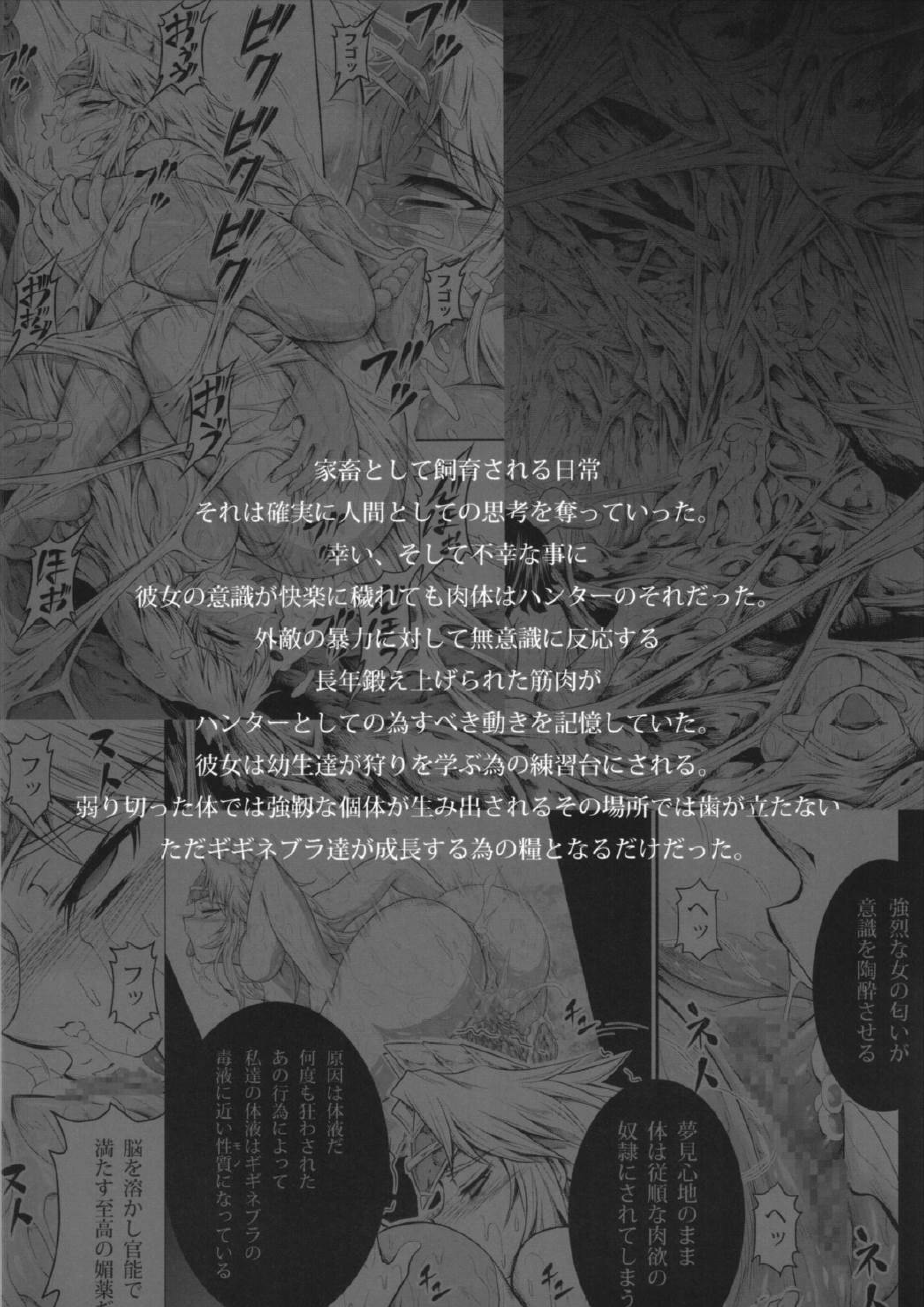
ギギネブラの巣を探し彷徨う彼女は
無数のギギネブラを斬り捨て、洞窟の奥を目指していた。
斬り伏せても斬り伏せても次から次へと湧いてくるギギネブラの群れ。
疲労が彼女の体を蝕む。
一瞬の迷い
ほんの一瞬の判断の迷いが彼女に毒霧を吸い込ませてしまう。
それは事実上の敗北。
毒は瞬時に体に染み渡り、至高の幸福感が体を包む。
抵抗を忘れ、彼女は快楽の波に身を任せるしかなくなってしまう。
ギギネブラの毒は麻薬
脳に強烈な快感を与え、思考を殺す。
獲物はただの従順な肉の塊となり、傷一つ無い新鮮で良質な餌となる。
彼女もまた、餌の悦びに震え
服従の涙を流し、歓喜の蜜を股から垂れ流した。
どんな強さも、どんな自信も
至高の快楽の前では無力だ。
もはや彼女は羨望を集める最高位のハンターではなく
されるがままに体を蹂躙され、悦びに浸るだけの惨めな一匹の牝だった。



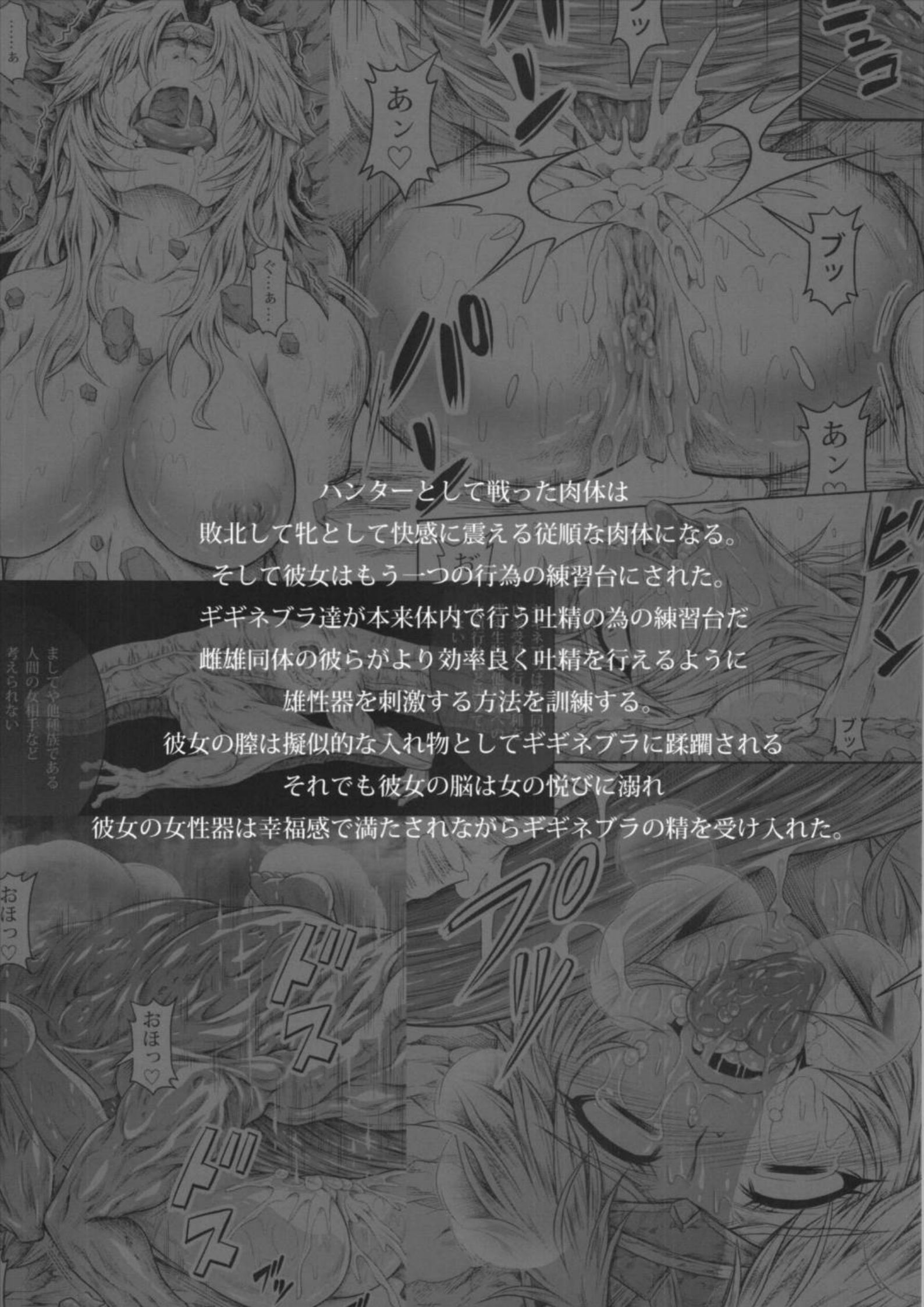
精神を冒され、肉体を蹂躙され
終わらぬ絶頂地獄に屈し、意識を失った彼女は
巨大なギギネブラの巣に連れ去られる
広大なその空間には沢山の女達が捕らわれていた。
肉欲に屈し、抵抗を忘れた女達は
飼育される家畜そのものだ
快楽と共に少しずつ体を改造され
良質な餌を分泌出来る牝になる。
人間の尊厳など、とうに無くし
餌として飼育される快感に歓喜するだけの従順な存在。
そして彼女も家畜になるための快楽拷問に襲われる。



不気味な椅子に座らされ、体内に謎の液体を注がれ続ける。
子宮まで液体に満たされる感覚は彼女に未知の幸福感を与えた。
女の悦びの中で肉体は良質な餌として変化していく。
絶頂と共に彼女の乳首から液体が噴き出した
それはギィギ達にとって最も良質な餌であり
彼女がそれを生成できる肉体に改造されてしまった事の証だった。
絶望より早くやって来る快感の波に押し流され
彼女は歓喜の嬌声を上げ続ける
家畜に堕ちた自身を祝福するかのように
そして彼女もまた広大な牧場で飼われる一匹の牝となった。



フゴッ
ビクビクビク
フゴッ
家畜として飼育される日常
それは確実に人間としての思考を奪っていった。
幸い、そして不幸な事に
彼女の意識が快楽に穢れても肉体はハンターのそれだった。
外敵の暴力に対して無意識に反応する
長年鍛え上げられた筋肉が
ハンターとしての為すべき動きを記憶していた。
彼女は幼生達が狩りを学ぶ為の練習台にされる。
弱り切った体では強靭な個体が生み出されるその場所では歯が立たない
ただギギネブラ達が成長する為の糧となるだけだった。
強烈な女の匂いが意識を陶酔させる
ヘッ
夢見心地のまま体は従順な肉欲の奴隷にされてしまう
ヘッ
原因は体液だ
何度も狂わされた
あの行為によって
私達の体液はギギネブラの毒液に近い性質になっている
フッ
フッ
脳を溶かし官能で
満たす至高の媚薬



ハンターとして戦った肉体は
敗北して牝として快感に震える従順な肉体になる。
そして彼女はもう一つの行為の練習台にされた。
ギギネブラ達が本来体内で行う吐精の為の練習台だ
雌雄同体の彼らがより効率良く吐精を行えるように
雄性器を刺激する方法を訓練する。
彼女の膣は擬似的な入れ物としてギギネブラに蹂躙される
それでも彼女の脳は女の悦びに溺れ
彼女の女性器は幸福感で満たされながらギギネブラの精を受け入れた。

そして私は
また戦わされる

そしてまた彼女は幼生の前に立たされる。

敗北して
犯されるために……

ツー

痛たたた
ヒュオオォ..
また随分落ちたもんだわ
ま生きてたからいっか
パン
パン
ただ一つだけ大きな問題が…
ガチャ
どうしようかコレ？
……多いなぁ

ガッ
ブルブルッ
ゴゴゴ
ゴゴゴ
ドッ
カラン
ドサ
ピュル
ピュル
ドロ
お……
う……お……

ビクッ
プル
プル
プル
ニュ
ニュ
ニュ
あっ♡
ああ♡
あ♡

ユサ
ユサ
ニュボ
ニュボ
ハッ
ハッ
ああああぁ
あぁぁぁぁぁ
ハッ
ハッ
いい♡
いいのぉ♡
射精ぇ♡
射精してぇ♡
逝かせてぇ♡
また脳みそ
逝かせてぇぇ♡
ハヘッ
ハヘッ
ハヘッ

ブッ
おほ♡
おほぉ♡
来たぁ♡
射精ぇぇぇ♡
精液いい♡
ビュルル
ビュルル
逝ぐぅ♡
ブル
精液で逝くぅ♡
精子で死ぬぅ♡
逝ぐ♡
ガク
ガク
ブル

カリカリ
カリカリ
おほっ♡
ほぉおおおおおおおぉ♡
ドサ
ブリッ
ブリリ
ジョロロロ
プル
プル
プル
プル
……う♡
……お♡
ユサ
ユサ

モワ
モワ
モワ
ゴボ
ゴボ
ユサ
ユサ
パラ
パラ

これはキクわ…
ハァ
ハァ
体が性的な快感に包まれて力が入らないコレがコイツらの毒か……
無抵抗に身を任せてしまいたい…そんな抗いがたい欲求が思考を支配していく
ここまでか
私は
私は

ハァ
ハァ
ハァ
ハァ
約束だ
アンタの教えを
乞いたい
ハァ
ハァ
それを手にできる
人間に教えられる
事など何も無いよ
もう君は
伝説にだって
挑めるはずさ
技術じゃない！
私は弱い！
私はアンタに
なりたい!!

ガラ
狩人も
奴等にとっては
他の人間と変わら
ないただの獲物だ
ドサ
ガチャ
どんな英雄にも
必ず危機が訪れる
生命を脅かす
絶対的な危機だ
グシャ
その瞬間に
真価が問われる
「狩る」か「狩られる」か
いいか
たとえ肉体がどうなろうが
決して獲物になるな
命が尽きるその瞬間まで

ハンター
狩人たれ
ガッ

スゥー

ドギャギャギャギャ

ビリ

ビリ

ビリ

ビリ

ビリ

ビリ

さぁ
狩りの続きだ

ドス
ドス
フリ
ホリ
フリ
ホリ
ユサ
ユサ
ユサ
ボコ
ブビュ

ビク
ビク
ビク
ギッ
ギィッ
ブリリ
ブリリ
ニュボ
ホカ
ホカ
ホカ
ホカ
ブブブ
ブブッ
キリ
イイイ

ぐぼぼぼ
ごっ
ぐおっ
ボコ
ボコ
ボコ
おっ
何だ!?
いつもと違う
行為が
終わったら
それで終わり
のはずだ

ドクン
ドクン
なのになぜ!?
ゴッ
ゴッ
ぐぎゃ
おぐっ
おげっ

が…っ…
ハッ
ハッ
あが……
ハッ
ビク
ハッ
ビク
そうか
行為で興奮したせいで
暴力的な衝動が強くなって
いるんだ
ハッ
ハッ
ハッ
ブル
ブル
ブル
ジョロ
ジョロ
パラ
パラ
パラ
女を虐げ屈服させ
壊してしまいたい
そんな衝動だ
キリ
キリ
キリ
がっ
あっ
まずい
化け物に常識も理性も無い
衝動のままに破壊して殺す
確実に……殺される……

あっ
あっ
あぁ
ギリリ
ギリリ
おっ
おぉっ
こんな状況なのに
体内には毒素が
色濃く残っていて
痛みをを全く感じない
ただただ
官能の波に全身が
包まれて女の悦びに
脳が狂っていく
ぐぉっ♡
おぉっ♡
おぉっ♡
このまま背骨を
へし折られて
全身を砕かれて
極限の絶頂と共に
死を迎える
ごっ♡
ごぉ♡
殺じて♡
殺じて下ざいぃ♡
肉体は抵抗を止め
その瞬間を待ちわびて
期待に震えてしまう
ミシ
ミシ
ドロ
ドロ
いぃ♡
いぃのぉ♡

ごおおお♥
ブシュ
ブシュ
ブチ
ブチ

まだだ
まだ狩りは
終わってない
ハッ
ハッ
ハッ
命が尽きる
その瞬間まで
ギッ
ギッ
ヒュン
ヒュン
バッ

モワ
ギッ？
ギギッ？
モワ
ギッ？
ブシュウウ
離脱!!
うおぉ!!
前が見えない!!
けむり玉何個
投げたんだ君は!?
20個ぉ!!
!?
ダッ
『狩人で在り続ける意志』
……それが
それがハンター
にとって最も
大切な物なのか？
ハンターに
最も大切な物？
トン

そんな事
語るのも馬鹿らしい

うるさいヤツだ
ほら甘えてやるぞ
あはん♡
可愛い♡好き♡
愛してる♡♡♡
ギュ♥
アイツら
頭でも打った
んじゃ……
ギュー♥
おお
おお
おおお♡
バキ
バキ
おおお♡
うおお♡
ボフ
ギ？
モク
モク
モク
ギギ？
ドサ
あっ
う…ぁ…
あ……？

ギッ？
ギッ？
ヨロ
ヨロ
いったい……何が…？
傷の方はもう大丈夫さすがはハンターってところね
でも毒が抜けるまではココに居てもらいますからね
それじゃ私はこれで
キリュ
待って

まだ私が何を
されたのか全部
話してないぞ

そ…それは

牝に戻されて
しまう

絶頂なんて
前戯に過ぎない

そこから無尽蔵に
女の悦びが掘り起こ
されていくんだ

あン♡

ホカ
ホカ

ビクビクビク

ブブブ

ほお

セックスなんて
比較にもならない
本物の性の快感に
満たされる

クチュ

クチュ

自分が誰だかも
分からなくなる
くらい快楽に
打ちのめされて

体中から無様な
体液を垂れ流して
悦びの声を上げ続
けるだけの惨めな
牝になってしまうんだ

あの快感を
味わってしまったら

女は…もう……

ハァ
ハァ
ハァ
ハァ
ハァ
バタン
クチュ
クチュ
ハァ
ハァ
ハァ

コンコン
入るわね
ゴク
朝よ
傷の加減は…
カリチャ
ヌチャ
ハァ
ハァ
以上のように
件のギギネブラ達は通常種を
遙かに上回る知能と特殊な毒を生かし
独自の社会を形成している

獲物を直ぐに食わずに
捕らえ飼育して利用する
快感を与え体液を啜り
狂い死ねば新鮮な内に食う
恐るべき賢さだ
フッ
フッ
フッ
フッ
ブル
ブル
ブル
ブル
ブチュ
ブチュ
ブチュ
毒素に最も弱い生物は
人間なのだろう
飼われている獲物達は一様に
与えられる快感に身を任せ
抵抗の意志を見せなかった
フゴ
フゴ
フゴ

だが
全ての人間が従順では無い
中にはギギネブラ達にとって
危険な存在になる者も居る

通常そのような者は殺され
食われるが、唯一例外がある
それはその者が
『特別良質な体液を分泌出来る』
場合だ

危険であり、かつ有用である
と判断された者は巣の最深部で
拘束される、この場所は正に
地獄と呼べるかもしれない
……いや、捕らわれた者には
本物の天国と言うべきか……

モワ
ヴフ♡
ヴフ♡
ヴフ♡
モワ
トロ
トロ
モワ
コポ
コポ
コポ
ヴフ♡
ホカ
ホカ
ヴフ♡

彼女達はさぞ名の通った
ハンターだったのだろう
しかしそこへ捕らわれてしまったら
名声も強さも意味を持たない
なぜなら彼女達はもう自分の意志で
指一つ動かせないのだから

ヴ♡

ヴ♡

ヴ♡

グジュ

グジュ

彼女達は脳を犯されている
いや、乗っ取られていると
言った方が正しいの
かもしれない

脳をコントロールされ
極上の栄養素を与え
られる事で女達の肉体は
瑞々しい鮮度を保つ

ヴ♡

ヴッ♡

ヴッ♡

ヴフ♡

ブチュ

ブチュ

ブチュ

ヴ♡

脳内の快楽中枢は常に
刺激され、快感による
良質な体液の分泌を
強いられ続ける

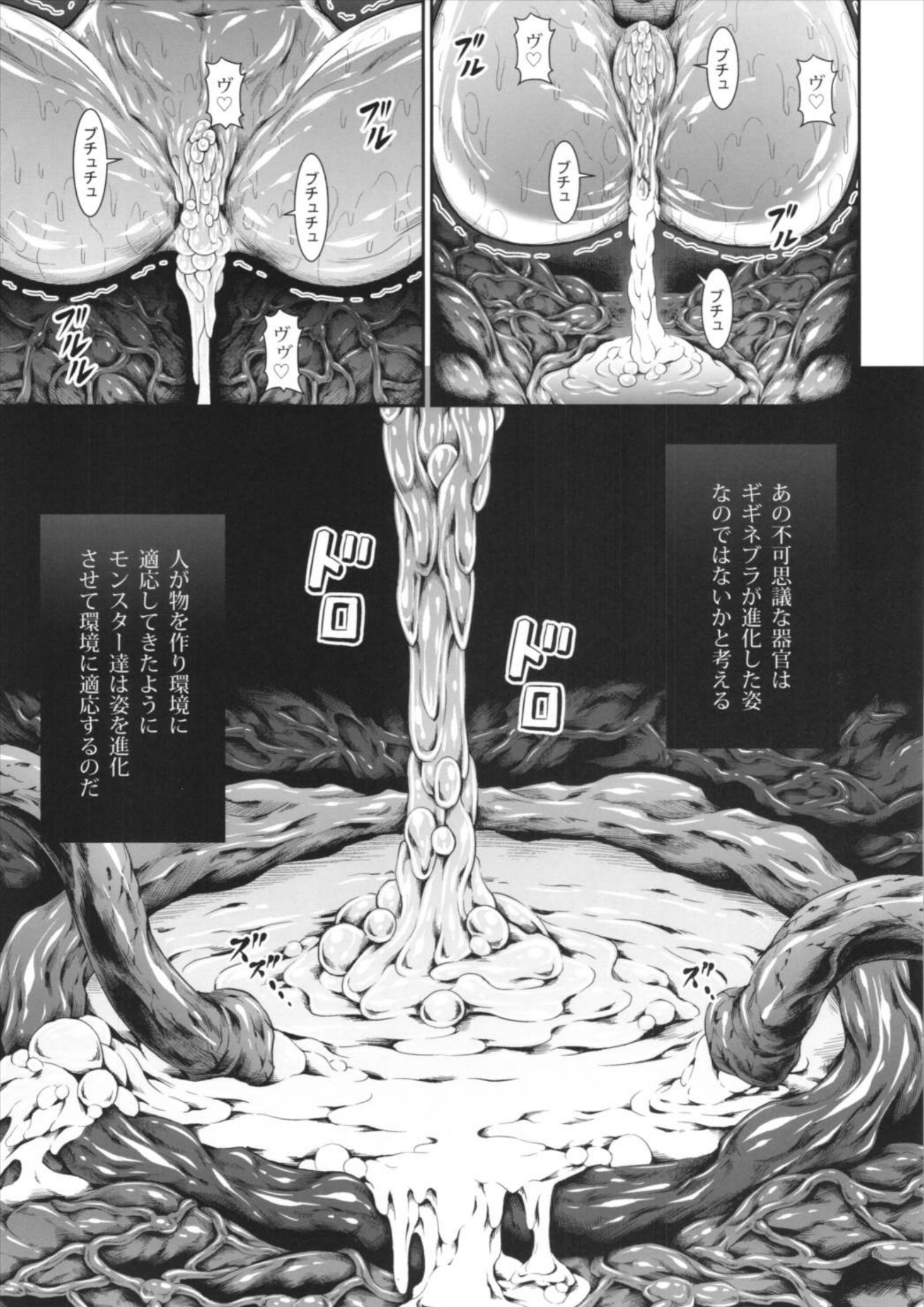
ヴヴ♡
ビクビク
ヴヴヴヴ♡
ビクビク
ヴヴ♡
ブッ
ブッ
ブッ
ガク
ガク
快感のレベルは完全に
コントロールされており
絶命の寸前まで段階的に
引き上げられる、ようは
『イキ死ぬ直前の快感』
を常に与えら続けるわけだ
ヴヴ♡
ヴヴ♡
ジョボボ
ブッ
ブッ
ブジュル
ガク
ガク
ヴヴ♡
ギギネブラ達にとって
イキ死ぬ瞬間に分泌される
体液が最も有用な餌になる
それを取り出す事が
強い個体を育てる事にも
繋がるのだ
ヴヴヴ♡
ビクビク
ビクビク
ビクビク
ヴヴヴ♡

ウッ♥♥♥
ビュルルル
アァァァ♥♥♥
脳の主導権を握られているせいで
失神する事も出来ない
ただただ女の身で味わえる
限界の快楽を甘受するだけだ
ッ♥♥
ムン
ムン
グジュ
グジュ
ブッ
ブッ
ッ♥♥

ブルブル
ヴッ♡
ブルブル
ヴッ♡
ヴ♡
ヴ♡
ヴ♡
ヴヴ♡
ヴヴヴ♡
脳を犯された女達に思考など無い
自分達が餌として利用されて
いる事など分からない
彼女達に分かるのは
究極の女の悦びだけ
もっとも
彼女達が自分の置かれている
状況を理解したとしても
自ら股を開き体を捧げるだろう
涙を流し牝の悦楽に服従するだろう

ヴゥ♡♡♡
ヴゥッ♡♡♡
ブブ♡♡
ブブブ♡
ヴヴゥ♡♡
ヴヴヴ♡♡
ヴヴー♡♡♡
ブッ♡
ブッ♡
ブッ♡

빔
빔
빔
빔

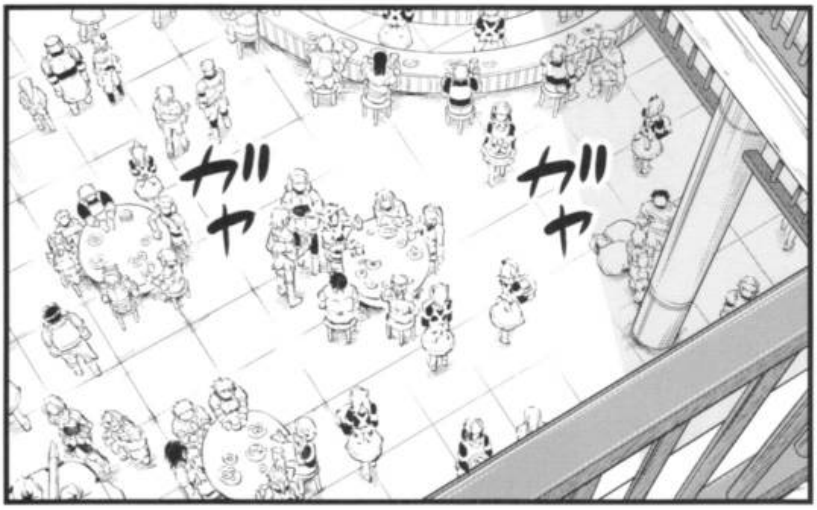

ヴ♡
ブチュ
ヴ♡
ブル
ブチュ
ブル
ブチュ
ヴ♡
ブル
ブチュチュ
ブチュチュ
ブル
ヴヴ♡
あの不可思議な器官は
ギギネブラが進化した姿
なのではないかと考える
人が物を作り環境に
適応してきたように
モンスター達は姿を進化
させて環境に適応するのだ
ドロ
ドロ
ズズズ
ズ

我々人間には彼らの進化は理解出来ない
それでも何一つ不思議なことなど無いはずだ
なぜなら彼らは人間の歴史より遙かに長い間
この世界に生きているのだから

これで我々の
『ギギネブラの生態』
についての報告を終わる

カリ

カリ



あの時の君は可愛かったよ♡
変態
変態
な！
やーい レズビアーン
ち、違う 私は可愛い 女の子が好きなだけだ！
やっぱりアンタは正しかったよ 本物の英雄だ
君！表現が下品だぞ！
それをレズって言うんだよー
うるへー レズっ子！
ハンターにとって最も大切な物……か

END

ソロハンターの生態 4

The fifth part

発行　YokohamaJunky
発行者　魔狩十織
発行日　2015.8.16
印刷　ねこのしっぽ
web　http://yokohamajunky.com/
email　mail@yokohamajunky.com

※この物語はフィクションであり、実在の人物団体及びギギネブラの設定とか一切関係ありません
尚、18歳未満の閲覧、購読は禁止です